

『令和二年度上半期加入・支払実績』まとまる！
加入金額は前年同期比三%減少、共済金は二億三千万円増で推移

【加入実績】

令和二年度上半期の加入実績は、漁業共済・地域共済の共済金額合計で、七百十億一千万円となり、前年同期に対して、十二億一千万円減少しました。

その主な内訳として、漁獲共済では、過年度より推進してきました漁船漁業で小型合併（えさん漁協）、一般刺し網（いぶり噴火湾漁協）、いか釣り（函館市漁協）、中型合併（斜里第一漁協）と、定置漁業でも、春さけ定置（歯舞漁協）で新規加入が図られた他、一般底びき網漁業を始め各漁種で契約割合の引上げが図られましたが、秋さけ定置、さんま棒受網の継続契約等においては、漁業環境の変化に伴い近年水揚が落ち込んだことにより共済限度額が低下し、全体では八億七千万円減少しました。

特定養殖共済においても、ほたて貝等養殖業（古宇郡・沙留漁協）で新規加入が図られた他、契約割合の引上げが一部で図られましたが、継続契約における水揚の落ち込みにより共済限度額が低下し、二億六千万円減少しました。

漁業施設共済では、本年四月に実施された基準共済掛金率の引下げの周知等により、さけ定置漁具の普及推進に取組んだ結果、契約割合の引上げが一部で図られたものの、休業等により五千万円の減少となりました。

なお、積立ぶらすは、本年度もクロマグロ強度資源管理タイプの特例措置が適用されたこと等から、定置漁業を中心に前年同期に比べると九億一千万円増加し、漁業者積立申込金額で五十九億六千万円となりました。

令和2年度 ぎょさい・積立ぶらす 引受実績表（9月末）

金額単位：億円

区 分	項 目	本年度実績		前年同期実績		同期対比増減		
		共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	
漁業共済	漁 獲	1号漁業	—	—	—	—	—	—
		漁船漁業	209.3	6.4	192.3	6.3	△ 17.0	0.1
		定置漁業	374.3	48.1	400.0	39.9	△ 25.7	8.2
		計	583.6	54.5	592.3	46.2	△ 8.7	8.3
	特定養殖	藻 類	—	—	—	—	—	—
		貝 類 等	69.4	5.1	72.0	4.3	△ 2.6	0.8
		計	69.4	5.1	72.0	4.3	△ 2.6	0.8
	漁業施設	養殖施設	2.9	△	2.7	△	0.2	△
		定 置 網	48.8	△	49.5	△	△ 0.7	△
		計	51.7	△	52.2	△	△ 0.5	△
合 計		704.7	59.6	716.5	50.5	△ 11.8	9.1	
地 域 共 済（休漁補償）		5.4	△	5.7	△	△ 0.3	△	
総 合 計		710.1	59.6	722.2	50.5	△ 12.1	9.1	

（注）共済金額は漁業共済、積立金額は積立ぶらすの漁業者積立申込金額である。

【加入速報】

十月の責任開始でえりも漁協の一般刺し網、厚岸漁協の小型合併、十一月の責任開始で羅臼漁協の小型定置が新規加入となりました。関係各位のご理解・ご協力に感謝を申し上げます。

年明けには、一号漁業のこんぶをとる漁業や各種漁船漁業が加入時期を迎えますが、ぎょさいと積立ぶらすとのセット加入を引き続き推進して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

【支払実績】

本年度の上半期の共済金支払は、漁業共済で二十六億一千三百万円の支払となりました。

その主な内容を前年同期と比べると、漁獲共済では、かに籠漁業で一億三千万円、底びき網漁業で二千三百万円減少しましたが、小型合併漁業、ほたて貝桁網や、定置漁業等で十三億三千六百万円増加したため、合計では十一億八千三百万円増加し、二十五億四千六百万円の支払となりました。

特定養殖共済では、藻類・貝類等の合計で二千九百万円増加し、三千一百万円、漁業施設共済では、さけ定置漁具で三百万円減少し、六百万円の支払となりました。

また、積立ぶらすの払戻補填金（漁業者十国）は、二十九億二千六百万円となり、前年同期に比べると、漁獲共済で九億五千一百万円増加、特定養殖共済で一億四千七百万円増加したことから、全体で十億九千八百百万円増加しました。

令和2年度 ぎょさい・積立ぶらす 支払実績表（9月末）

金額単位：億円

区 分	項 目	本年度支払（払戻）		前年同期支払（払戻）		同期対比増減		
		共済金	積立払戻	共済金	積立払戻	共済金	積立払戻	
漁業共済	漁 獲	1号漁業	0.06	2.43	0.01	0.37	0.05	2.06
		漁船漁業	22.26	23.56	13.08	16.23	9.18	7.33
		定置漁業	3.14	1.44	0.54	1.32	2.60	0.12
		計	25.46	27.43	13.63	17.92	11.83	9.51
	特定養殖	藻 類	0.02	0.06	0.02	0.09	0.00	△ 0.03
		貝 類 等	0.29	1.67	0.10	0.17	0.19	1.50
		計	0.31	1.73	0.12	0.26	0.19	1.47
	漁業施設	養殖施設	0.06	/	0.06	/	0.00	/
		定 置 網	—	/	0.03	/	△ 0.03	/
		計	0.06	/	0.09	/	△ 0.03	/
合 計		25.83	29.16	13.84	18.18	11.99	10.98	
地 域 共 済（休漁補償）		0.30	/	0.00	/	0.30	/	
総 合 計		26.13	29.16	13.84	18.18	12.29	10.98	

（注）共済金は漁業共済、積立払戻は積立ぶらすの払戻補てん金（漁業者十国）である。

『今後の共済金・積立ぶらす支払見込』

共済金・積立ぶらす合わせて三百億円を超える支払を予定

本年十二月以降に見込まれる主要漁業の「天然こんぶ」、「秋さけ定置」、「ほたて貝桁網」、「さんま棒受網」における最大支払額は共済金の合計で約百二十九億円、積立ぶらすの合計で約百七十四億円が見込まれております。

【天然こんぶ】

漁場環境の変化による繁茂状況の悪化等により、減産となる見込みです。

本年九月末の販売分に未販売金額を聞き取り試算したところ、函館・釧路・根室地区を中心に漁獲共済で五億円、積立ぶらすで九億円、合計で十四億円の支払が見込まれています。

【秋さけ定置】

日本海側の一部においては前年を上回る水揚となった一方、主産地のオホーツク東部や太平洋側は来遊不振と明暗が分かれる漁況となり、日高・釧路・根室・北見地区を中心に漁獲共済で

四十億円、積立ぶらすで百二十四億円、合計で百六十四億円の支払が見込まれています。

【ほたて貝桁網】

時化等に伴う斃死による減産、また新型コロナウイルス感染症等の影響による価格安により、北見・稚内地区を中心に漁獲共済で五十二億円、積立ぶらすで三十六億円、合計で八十八億円の支払が見込まれています。

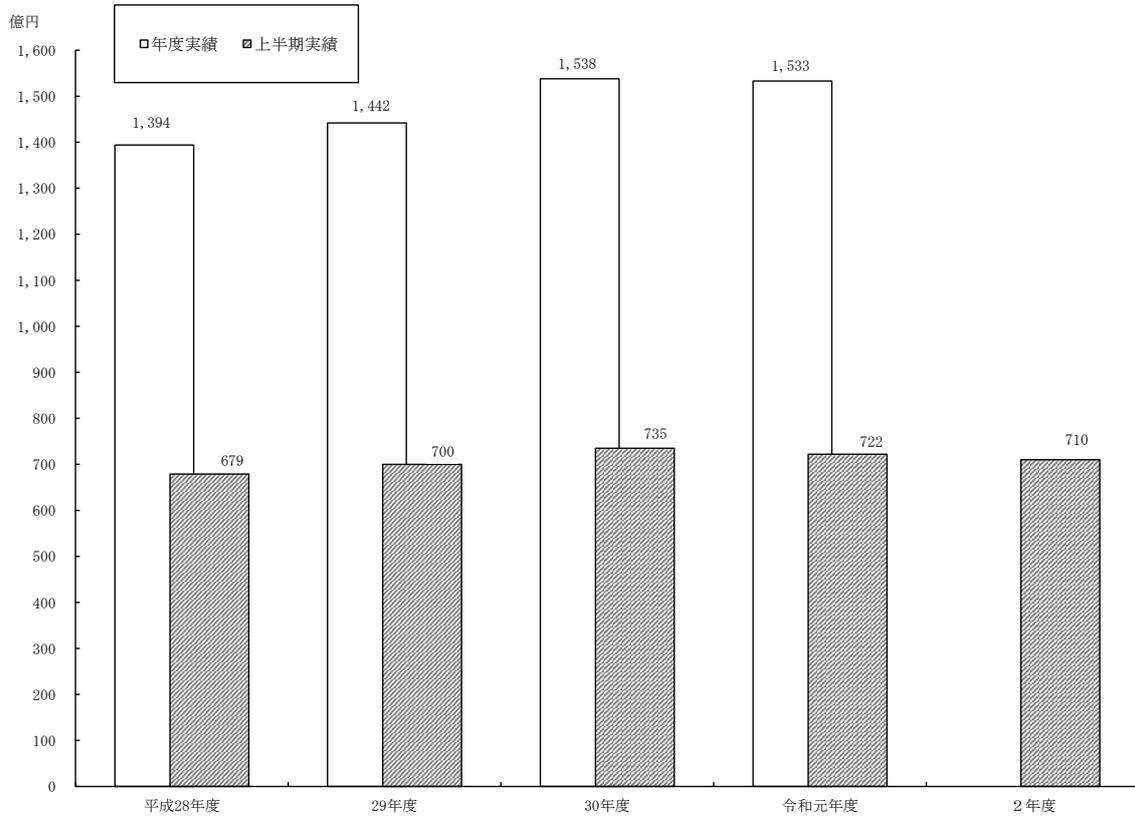
【さんま棒受網】

記録的な不漁となった昨年を更に下回る水揚状況となっており、漁獲共済で三十一億円、積立ぶらすで五億円、合計で三十六億円の支払が見込まれています。

当組合では、共済金・積立ぶらすの早期支払に向けて、適切かつ迅速な処理に取り組んでおりますので、手続きに必要な書類の手配など関係各位のご協力をお願い申し上げます。



上半期 加入実績の推移



上半期 支払共済金の推移

